

平成18事業年度に係る業務の実績に関する報告書  
( 概要版 )

平成19年6月  
公立大学法人岩手県立大学

# 1 大学の概要

# 岩手県立大学

(1) 法人名 公立大学法人岩手県立大学

(2) 所在地 岩手県岩手郡滝沢村

## (3) 役員の状況

理事長	市川喜紀
副理事長	谷口誠(学長)
専務理事	船生豊(副学長)
専務理事	古澤眞作(副学長/事務局長)
理事	細江達郎(教育・学生支援本部長)
理事	伊藤憲三(研究・地域連携本部長)
理事(非常勤)	有賀貞一((株)CSKホールディングス代表取締役)
理事(非常勤)	工藤洋子((株)ジョイス監査役会事務局)
監事(非常勤)	近村功一(岩手県中小企業再生支援協議会支援業務責任者)
監事(非常勤)	村野栄司(村野栄司税理士事務所)

## (4) 学部等の構成

ア 岩手県立大学 学部 看護学部  
 社会福祉学部  
 ソフトウェア情報学部  
 総合政策学部  
 大学院 看護学研究科(博士前期・後期課程)  
 社会福祉学研究科(博士前期・後期課程)  
 ソフトウェア情報学研究科(博士前期・後期課程)  
 総合政策研究科(博士前期・後期課程)

イ 岩手県立大学盛岡短期大学部

ウ 岩手県立大学宮古短期大学部

## (5) 学生数及び教職員数

### ア 学生数

#### (ア) 岩手県立大学

学部	看護学部	387名
	社会福祉学部	414名
	ソフトウェア情報学部	736名
	総合政策学部	460名
	(学部計1,	997名)
大学院	看護学研究科/博士前期課程	28名
	博士後期課程	15名
	社会福祉学研究科/博士前期課程	21名
	/博士後期課程	11名
	ソフトウェア情報学研究科/博士前期課程	72名
	博士後期課程	30名
	総合政策研究科/博士前期課程	20名
	博士後期課程	8名
	(大学院計205名)	
	合計2,	202名

(イ) 岩手県立大学盛岡短期大学部	230名
(ウ) 岩手県立大学宮古短期大学部	231名
総計2,	663名

## イ 教員数(専任教)

(ア) 岩手県立大学

看護学部・研究科	46名	
社会福祉学部・研究科	44名	
ソフトウェア情報学部・研究科	52名	
総合政策学部・研究科	38名	
共通教育センター	16名	
その他(学長、本部)	3名	合計199名

(イ) 岩手県立大学盛岡短期大学部 28名  
 (ウ) 岩手県立大学宮古短期大学部 18名 総計245名

## ウ 職員数

職員	59名(うち宮古短期大学部 8名)
任期付職員	12名( " 一名)
非常勤職員	9名( " 2名)
派遣スタッフ	41名( " 5名)
計	121名( " 15名)

## (6) 大学の特徴等

### ア 沿革

岩手県立大学は、「共に支え、共に生きる、人間性豊かな社会」の形成に寄与するため、深い教養を身につけ、高度な専門知識を修得した自律的な人間の育成を目指し、看護学部、社会福祉学部、ソフトウェア情報学部及び総合政策学部の4学部による岩手県立大学に、県立短期大学として歴史と伝統を有する盛岡短期大学と宮古短期大学を再編・併設のうえ、平成10年4月に開学しました。

平成11年12月には大学院設置認可を得て、順次大学院を整備し、平成16年度に現在の4学部4研究科、2短期大学部の体制が完成しているところです。

この間、平成14年3月からは新設大学(4大)としての卒業生を社会に送り出しながら、大学改革を推進するため、平成15年1月にアクションプランを策定しましたが、その着実な推進のため、平成17年度に公立大学法人化したところです。2年度目を迎える本事業年度はさらなる飛躍を目指して大学運営を行い、今日に至っています。

### イ 建学の理念と中期目標・中期計画

岩手県立大学は、「自然、科学、人間が調和した新しい時代の創造を願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す」との建学の理念の下、①豊かな教養の修得と人間尊重の精神の涵養、②学際的領域を重視した特色ある教育・研究、③実学・実践重視の教育・研究、④地域社会への貢献、⑤国際社会への貢献の5つの基本的方向により、開学以来の大学づくりを進めています。

中期目標では、大学を取り巻く様々な環境の急速な変化に対応し、公立大学法人への移行を機に大学運営の自律性をさらに確立し、教育・研究の一層の質的向上を図るため、この基本的方向を発展させながら、①「実学実践」の教育・研究を通して地域に貢献する大学、②志に火をつける「実学実践」の教育による人間的成長を培う大学、③「実学実践」を中核とした「人間教育」・「実証研究」・「地域貢献」の一体的な進展を目指していくことが提示され、本学は、この目標を達成するための中期計画を策定し、各般にわたる活動に取り組んでいます。

## 2 全体的な状況とその自己評価

本項では、「(1) はじめに」において、本学が平成18事業年度に能動的な活動として重点的に取り組んだ事項を概括したうえで、「(2) 全体的な計画の進行状況」として年度計画項目に係る実施状況の概要、「(3) 全体評価に規定する事項」として公立大学法人岩手県立大学に係る各事業年度業務実績評価実施要領に定められた全体評価の項目に係る実施状況を記述しています。

### (1) はじめに

岩手県立大学は、平成17年4月に法人化し、業務を円滑かつ効果的に推進するための体制を構築しながら、各般にわたる事業を展開しています。

法人化2年度目となる平成18事業年度は、業務の実施体制を見直ししつつ、理事長、学長のリーダーシップの下、年度計画の着実な実行を図りましたが、特に①将来を見通した経営戦略の構築を図るとともに、②戦略的な改革・改善の取組み、③国際的な視野に立った教育研究の促進、④新たな地域貢献方策の展開に重点を置いて取り組みました。

#### ① 将来を見通した経営戦略の構築

本学は、平成19年度に開学10年目を迎えることから、役員会議や本部長会議において今後の本学のあるべき姿について検討のうえ、全学的な議論を始めるとともに、大学全体の機能強化を目指した盛岡短期大学部の4年制移行を含む将来構想について検討を進めるなど、将来を見通した経営戦略の構築に向けた活動を展開しました。

また、本学の姿を可視化し、将来を見通した経営戦略の基礎とすべき指標をモデル的に構築しました。

#### ② 戦略的な改革・改善の取組み

教育研究活動についての外部評価として学校教育法により義務付けられている「認証評価」を、能動的な自己点検・評価を基礎とする改革・改善の手段と位置づけ、大学評価委員会によるスケジュールリング、指標モデルの構築、学内セミナーの開催、部局との打合せなどにより、自己点検・評価の促進を図るとともに、平成19年度に新たな本部組織として「大学改革推進本部」を設置することを決定し、中期計画に係る業務と合わせて、計画と評価を核とした全学的な改革・改善を推進する体制の構築を図りました。

また、教員採用の手続きを見直すとともに、業績の評価を基礎とする人事制度導入の検討を始め、学長等と教職員が意見交換を行うなど、全学的な意識改革に取り組みました。

#### ③ 国際的な視野に立った教育研究の促進

地域において、より質の高い実践活動を行っていくため、常に国際レベルを意識した教育研究に取り組むことを目指し、4回の国際講演会を開催したほか、学内に北東アジア研究グループを立ち上げ、北東アジア研究交流フォーラムを開催するなど、国

際的な視野を醸成する活動に取り組みました。

一方では、英語教育を一層強化するとともに、チューター制度の導入などにより留学生支援の充実を図りながら、新たに韓国又松大学と国際交流協定を締結したほか、中国大連交通大学からの留学生受入れ、韓国慶尚大学等への海外研修派遣、米国UNCWとの共同研究など国際交流協定締結大学を中心に具体的な国際交流の取組みを展開しました。

#### ④ 新たな地域貢献方策の展開

法人化と同時に設置した岩手県立大学地域連携研究センターを中心に、自治体や企業との「連携協定」の締結、地域から直接研究課題を募集する「公募型地域課題研究」の実施、他大学、民間企業からの研究員や外部研究資金を受け入れる「戦略的地域再生研究機構（プロジェクト研究所）」の設置など、新たな地域貢献の枠組みを構築し、全学一体となって具体的な実践活動を展開しました。

また、本学の新たな活動フィールドとして設置した「岩手県立大学アイーナキャンパス」においては、公開講座や社会人リカレント講座を開催したほか、保健医療や臨床心理に関する相談活動、グループワークや研修会など、県民と直接交流しながら、本学の特性を活かしたプログラムを提供する活動を展開しました。

### (2) 全体的な計画の進行状況

岩手県立大学は、平成18事業年度においては、法人化初年度に構築した組織体制の実質化を図りながら、年度計画として提示した各般にわたる活動を展開した結果、当初の計画項目にない実施項目を含めて332項目中253項目（76.2%、前年度66.8%）において計画を着実に遂行したほか、平成19年度以降の具体的な実施を見込む取組みも含めて、306項目（92.2%、前年度82.9%）は概ね順調に実行し、一定の成果を達成することができました。

一方、26項目（7.8%、前年度17.1%）については、新たな課題の認識などもあって十分な実行に至りませんでした。平成19年度以降改めて実施計画を検討のうえ取り組みます。

### (3) 全体評価に規定する事項

#### ① 理事長及び学長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組み

法人経営と大学運営について重要事項を協議する役員会議と本部長会議について、議論の実質化を図り、各種の方針や方向性を示すなど、トップのリーダーシップによる全学一体となった大学運営を図りました。

特に、平成19年度計画の策定にあたっては、平成17事業年度に係る業務実績に関する岩手県地方独立行政法人評価委員会の評価を受け、重点的に取り組む事項を提示したほか、開学10周年に向けては、今後の県立大学のあるべき姿を構築するため、そ

のコアとなるビジョンを提示するなど、学内論議の活性化に努めています。

また、喫緊の課題に対応するため、「人事制度改革本部」、「盛岡短期大学部等将来構想検討委員会」及び「開学10周年記念事業構想委員会」を設置し、それぞれの課題に関する検討を進めるとともに、平成19年度からは新たに「副学長代理」の職を置くこととし、特定の課題を機動的に執行する体制の構築を図りました。

一方、中期計画の進行管理や認証評価の受審など、自己点検・評価を基礎とする改革・改善の重要性に鑑み、新たな本部組織として「大学改革推進本部」を平成19年4月から設置することを決定し、評価や大学改革を責任をもって遂行する体制の構築を図りました。

## ② 県民や社会に対する説明責任を重視した社会に開かれた大学運営を目指した取り組み

法人化に伴い、平成17事業年度決算については、地方独立行政法人法に基づき、県報において公告し、財務諸表その他の関係書類を滝沢キャンパス、宮古キャンパスに備え付けて一般の閲覧に供したほか、平成17事業年度に係る業務実績及びその評価結果と合わせてホームページ上に掲載するとともに、その概要について記者発表するなど、大学の運営状況の説明に努めました。

教育・研究の成果については、岩手県立大学公開講座を継続して開催したほか、本学の新たな活動フィールドとして設置した「岩手県立大学アイーナキャンパス」において、各種の講座や社会人リカレント講座、保健医療や臨床心理に関する相談活動、グループワークの支援や研修会の開催などを通じて、直接県民と触れ合いながら、本学の取り組みや研究成果の説明と地域社会への還元に努めました。

一方、岩手県の幹部職員や岩手経済同友会との意見交換会を行うとともに、広報誌に外部有識者の意見を掲載するなど、外部の提言をより広く受け入れる活動を行ったほか、県民等から寄せられる意見・提言については、反映状況や回答状況をホームページに公開しました。

## ③ 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取り組み、創意工夫

ア 短期大学部において、大学入試センター試験を導入するとともに、ソフトウェア情報学研究科における留学生を対象とする10月入学のための特別選抜、盛岡短期大学部国際文化学科における社会人に配慮した特別選抜を実施するなど、入試形態の多様化を推進しました。とりわけ、宮古短期大学部における大学入試センター試験の実施については、沿岸地域の高校生の利便性向上に寄与しました。

イ 平成18年4月に設置した共通教育センターが中心となって、「共通教育調整会議」を設置し、各学部との連携調整により、共通教育を充実する運営体制を整備し、平成19年度カリキュラムを編成しました。

ウ 各学部、研究科及び短期大学部において特色ある専門教育の充実を図り、次のような大きな成果を挙げました。

(ア)看護学研究科において、平成17年度の小児看護専門看護師教育課程に引き続き、成人看護専門看護師教育課程の認定を受けました。

(イ) 文部科学省「特色ある大学教育GP」に採択されている「相撲部屋方式」による教育を実施しているソフトウェア情報学部においては、情報処理学会全国大会において6人の学生奨励賞受賞者を輩出し、2年連続全国1位となりました。

(ウ) 総合政策学部においては、新たな資格取得教育に取り組み、「ビオトープ管理士」について、在学生5名が受験し4名が2級管理士に合格したほか、「社会調査士」については、社会調査士資格認定機構から科目認定を受けました。

(エ) 盛岡短期大学部においては、国際文化学科が主体となって実施している「自他の文化理解を柱とした国際文化教育」が、平成18年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。

エ 学生のキャリア意識の向上を図るため、全学を対象とする公開講座「人間と職業」を選択必修科目として開講し、70名が履修するとともに、就職支援センターに新たに専属職員を配置するなど、就職支援対策の充実を図り、高い就職率を維持しました。

宮古短期大学部においては、文部科学省「eラーニングによる人材育成事業」の採択を得て、地域の企業や卒業生の協力を得ながら、就職活動を支援するeラーニングのコンテンツを作成し、教材や就職支援に活用しました。

オ 地域のニーズに即した実践的研究を推進するため、新たな研究費配分の仕組みとして「公募型地域課題研究」を実施し、研究テーマを県内自治体、NPOや企業等に公募のうえ、16件を採択し、研究に着手しました。

カ 他大学、民間企業からの研究員や外部研究資金を受け入れる「戦略的地域再生研究機構（プロジェクト研究所）」を制度化し、①テラヘルツ応用研究所、②組込技術研究所、③ソフトウェア戦略研究所、④地域防災情報研究所、⑤先端情報伝達研究所を立ち上げ、実践的な研究を推進しました。

キ これまでの教育研究における実践的活動の成果を基礎として、①紫波町、②株式会社アイシーエス、③二戸地区広域行政事務組合、④遠野市と連携協定を締結し、大学と地域との新しい連携の枠組みを構築しながら、具体的な連携事業を推進しました。

ク 社会福祉学部では、県、県社会福祉協議会との連携により、地域の福祉課題を設定のうえ地域福祉開発研究会を4回実施するとともに、他の研究会とセミナーを共催し、関係市町村や社会福祉協議会、民間施設等から多くの参加を得て、地域の福祉施策の向上を図りました。

ケ 平成18年4月に「岩手県立大学アイーナキャンパス」を開設し、社会人に配慮した大学院の授業を行うとともに、公開講座や社会人リカレント講座、保健医療、心理や福祉に関する相談活動、グループワークや研修会等多彩な事業を行うなど、県民と直接交流する新しい活動フィールドとして活用しました。

## ④ 大学改革を推進させる取り組み

人事制度改革、盛岡短期大学部等将来構想及び開学10周年に向けた今後のビジョンの検討など、将来を見通した経営戦略の検討に着手する一方、県民や学外有識者からの意見・提言を大学運営に反映する体制を強化するなど、教職員の意識改革を図り

ながら、改革に向けた取組みを推進しました。

また、認証評価の受審に関する取組みを進める中で、自己点検・評価の意識啓発を図るとともに、「大学改革推進本部」を平成19年度から設置することとし、改革・改善について責任をもって推進する体制の構築を図りました。

教育面では、「教育改善FD推進会議」を設置し、全授業科目に対する学生による授業評価を継続して実施するとともに、教員による相互授業聴講等により、具体的な教育改善に取り組みました。

研究面では、外部研究資金の獲得に向けて、インセンティブを付与する仕組みを構築するなど、競争資金獲得の意識付けを行いました。

#### ⑤ 業務運営等の改善及び財務状況の改善に関する取組み

事務局全体において、業務プロセス改善（県大版IMS）に取り組み、18,404時間の削減を図るとともに、省エネアクションプランの実施によりエネルギー使用量で前年度比7.34%の削減を達成しました。

また、教職員をメンバーとするワーキンググループにより、財務会計システムと旅費システムの改善に取り組み、使い勝手のよいシステムに改善を図るとともに、グループウェアの導入により、教職員間の情報共有を促進しました。

外部競争資金の獲得については、獲得した研究費の一定割合に相当する研究費を当該学部及び研究者に配分する「外部研究費獲得促進費」を創設したほか、公募情報をグループウェアなどにより迅速に伝達するとともに、応募書類作成の演習も含めた実践講座を開催するなどして応募を促進し、応募及び外部資金の増加を図りました。（科学研究費等補助金応募数：75件→83件、新規採択金額：37,700千円→56,700千円）

#### ⑥ 自己点検・評価及び情報公開に関する取組み

平成17事業年度の業務実績をとりまとめるとともに、認証評価の受審に向けた取組みを進める中で、自己点検・評価を促進しました。

特にも、認証評価の取組みにおいては、2回にわたる全学を対象とする「認証評価セミナー」を開催し、受審の基礎となる自己点検・評価の意識啓発を行うとともに、大学評価委員会と部局との打合せにより、実施体制の構築や自己点検・評価を促進する活動を行いました。

また、大学の運営データのほか、学生や教職員、卒業生の就職企業に対するアンケート調査等により、大学を可視化する指標をモデル的に構築し、各部局による活用の促進を図りました。

情報公開については、情報公開規程に基づき、入試結果等に関する公開請求に対して65件の情報公開を行いました。

一方では、平成17事業年度の業務実績及びその評価や決算等の大学運営情報をホームページ等において公開するとともに、「広報連絡調整会議」を設置し、全学的な広報活動の展開方法や仕組みなどを構築しながら、ホームページの充実、マスコミへの情

報提供など、大学の活動や成果に関する積極的な公表に努めました。

#### ⑦ その他

ア 災害や不慮の事態に的確に対応するため「危機管理対応指針」を策定するとともに、指針に基づき作成した緊急連絡網による情報伝達訓練を実施しました。

イ セクシャル・ハラスメントのほかアカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメント等を網羅した「公立大学法人岩手県立大学ハラスメントの防止に関する規程」及びガイドラインを制定し、パンフレットや研修会等により意識啓発を図りました。

### 3 項目別の状況

区分	自己評価			主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘要 (主な運営データ等)																																																										
	区分	項目数	割合%		区分																																																										
I 大学の教育・研究などの質の向上に関する目標を達成するためにとる措置	A	204	75.6	<b>◎ 全学的な取り組み</b> <b>① 短大入試の多様化</b> 短期大学部において、新たに大学入試センター試験を導入しました。特に、新たにセンター試験会場となった宮古短期大学部は、地域の高校生の利便性確保につながりました。 <b>② 全学的な教育改善への取り組み</b> 「教育改善FD (Faculty Development) 推進会議」を設置し、教育改善上の課題に即したテーマの研修会を実施し、平成17年度の試行的な実施を踏まえて、全学での相互授業聴講を実施しました。 <b>③ 5大学連携の推進</b> いわて5大学学長会議の今年度の幹事校として、単位互換や図書館の相互利用などに関する5大学連携を推進しました。特に、今年度は、5大学の学長がはじめてパネリストとして一堂に会したシンポジウムを企画し、実施しました。 <b>④ 図書館の活用促進講習会</b> 学生及び教職員を対象として5種類(図書館利用、図書検索、論文検索、雑誌検索、実践編)で構成する利用講習会を平成18年11月6日から5日間の日程で開催し、延べ50名の受講者がありました。 <b>⑤ 学生のための相談体制の充実</b> <b>ア ピアカウンセリング</b> 多様な相談体制の構築を図るため、学生が相談員となるピアカウンセリングを試験的に実施し、平成19年度から本格実施することにしました。 <b>イ 就職支援センター</b> 平成18年度から就職支援センターに専属の職員を配置することにより、学生の様々な相談にも臨機応変に対応でき、タイムリーな指導をすることが出来ました。さらに、昨年度に引き続きジョブカフェいわてからカウンセラーの派遣を得て水曜日に「何でも相談」を実施しています。 <b>ウ 健康サポートセンター臨時学生相談</b> 健康サポートセンターの周知の一環として定期健康相談時に臨時学生相談を開設しました。また、過体重の学生等を対象にした生活改善指導や感染性胃腸炎の情報周知などを行い、健康支援の向上を図りました。 <b>⑥ 受動喫煙対策と喫煙マナーの向上</b> 受動喫煙対策の一環として、10月から屋外灰皿を22箇所から9箇所へ半数以下に削減して喫煙場所の明確化を図るとともに、掲示や現場指導により喫煙マナーの向上を呼びかけた結果、タバコのポイ捨てが減少しました。 <b>⑦ 留学生支援の充実</b> 外国人留学生チューターを日本人学生11名に委嘱し、留学生の生活・学習支援を図るとともに、留学生支援基金を活用して、4名の留学生への緊急資金貸付による生活支援を行ったほか、教職員等との交流会を開催し意見交換を行いました。 さらに、平成18年度から本格実施した日本語補講については、中級クラスに加え初級クラスを開設し、合計11名の留学生が受講しました。また、「にほんごチェックサポート」制度を創設し、留学生支援の一層の充実を図りました。 <b>⑧ 「人間と職業」開講</b> 平成18年度後期に「人間と職業」を全学公開講座として外部講師を招いて選択必修科目として開講し、70名が履修しキャリア意識の向上を図りました。 <b>⑨ 「公募型地域課題研究」の創設</b> 直接、地域から研究課題を募集する「公募型地域課題研究」を新たにメニュー研究に追加し、県内の自治体やNPO、企業等から57件の応募を受け、各学部の選考評価を踏まえ16件を採択し、平成18年度は3件着手し、平成19年度は13件について取り組むこととしています。	<b>○入試の状況</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H17</th> <th>H18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">県立大学</td> <td rowspan="3">学部</td> <td>入学者数</td> <td>467</td> <td>448</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>1,806</td> <td>2,104</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>4.1</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院</td> <td>入学者数</td> <td>87</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>126</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>1.2</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">盛岡短大</td> <td>入学者数</td> <td>119</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>336</td> <td>342</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>3.4</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>258</td> <td>266</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">宮古短大</td> <td>入学者数</td> <td>123</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>168</td> <td>174</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>158</td> <td>169</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>実質倍率</td> <td>1.1</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table> (H18.5.1 運営データ、人・%)			区分		H17	H18	県立大学	学部	入学者数	467	448	志願者数	1,806	2,104	志願倍率	4.1	4.8	大学院	入学者数	87	53	志願者数	126	77	志願倍率	1.2	0.7	盛岡短大	入学者数	119	107	志願者数	336	342	志願倍率	3.4	3.4	受験者数	258	266	宮古短大	入学者数	123	108	志願者数	168	174	志願倍率	1.7	1.7	受験者数	158	169			実質倍率	1.1	1.3
	区分		H17		H18																																																										
	県立大学	学部	入学者数		467	448																																																									
			志願者数		1,806	2,104																																																									
			志願倍率		4.1	4.8																																																									
大学院		入学者数	87	53																																																											
		志願者数	126	77																																																											
		志願倍率	1.2	0.7																																																											
盛岡短大	入学者数	119	107																																																												
	志願者数	336	342																																																												
	志願倍率	3.4	3.4																																																												
	受験者数	258	266																																																												
宮古短大	入学者数	123	108																																																												
	志願者数	168	174																																																												
	志願倍率	1.7	1.7																																																												
	受験者数	158	169																																																												
		実質倍率	1.1	1.3																																																											
				<b>○「本学が第一希望」の割合</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>新入生</th> <th>在学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県大</td> <td>第一希望</td> <td>79.9</td> <td>75.9</td> </tr> <tr> <td>第二希望</td> <td>11.7</td> <td>12.2</td> </tr> <tr> <td>第三希望以下</td> <td>8.1</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛短</td> <td>第一希望</td> <td>53.1</td> <td>58.8</td> </tr> <tr> <td>第二希望</td> <td>25.7</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>第三希望以下</td> <td>20.4</td> <td>21.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮短</td> <td>第一希望</td> <td>60.2</td> <td>59.6</td> </tr> <tr> <td>第二希望</td> <td>17.8</td> <td>20.2</td> </tr> <tr> <td>第三希望以下</td> <td>18.6</td> <td>20.2</td> </tr> </tbody> </table> (新入生・在学生アンケート、%)			区分	新入生	在学生	県大	第一希望	79.9	75.9	第二希望	11.7	12.2	第三希望以下	8.1	11.0	盛短	第一希望	53.1	58.8	第二希望	25.7	19.6	第三希望以下	20.4	21.6	宮短	第一希望	60.2	59.6	第二希望	17.8	20.2	第三希望以下	18.6	20.2																								
区分	新入生	在学生																																																													
県大	第一希望	79.9	75.9																																																												
	第二希望	11.7	12.2																																																												
	第三希望以下	8.1	11.0																																																												
盛短	第一希望	53.1	58.8																																																												
	第二希望	25.7	19.6																																																												
	第三希望以下	20.4	21.6																																																												
宮短	第一希望	60.2	59.6																																																												
	第二希望	17.8	20.2																																																												
	第三希望以下	18.6	20.2																																																												

区 分	自己評価		主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘 要 (主な運営データ等)																																																																																																																
	区分	項目数		割合%																																																																																																																
			<p>⑩ 戦略的地域再生研究機構（プロジェクト研究所）の創設 戦略的地域再生研究機構に係るプロジェクト研究所設置運営要領を整備し、テラヘルツ応用研究所など5研究所を設置しました。</p> <p>⑪ 全学研究プロジェクトの推進 ア 地域専門職高度化プロジェクト eラーニングサイトとして看護職のための「遺伝看護学」を構築し、試験運用を開始し、組込技術者のためのeラーニングサイト「組込みソフトものづくり塾」については、試作に着手しました。 また、福祉職及び農業改良指導員のための支援システム開発は、基礎調査を実施し、看護場面検討フォーラムWEB版については、看護学部公開講座などで試用し使い勝手などの意見を収集しました。</p> <p>イ 共創メディア研究プロジェクト コミュニティFM放送局開設のための準備委員会を平成19年2月に設置し、インターネットラジオ等の情報配信を担う学生主体のNPOを設立しました。 また、ホスピタルラジオのための骨導受聴方式のベッド枕の研究開発については、平成18年度滝沢村産官学共同事業に採択され、地元企業との共同開発を実施しました。</p> <p>ウ 環境研究プロジェクト 奥州市の環境条例制定を支援するとともに、環境保全に関するシンポジウムや北上川水域の生態系影響に関する基礎調査を実施しました。</p> <p>エ テラヘルツ応用研究プロジェクト 再現性のあるテラヘルツスペクトルデータを可能とするペレット形状の改良や水溶性試料を測定する新たな測定方法を考案しました。また植物水分の分布画像化を試み、種子の水分の偏在を確認するなど、成果をあげました。</p> <p>⑫ 全学プロジェクト研究費中間評価及び事後評価の実施 外部有識者による学術研究費評価委員会を設置し、全学プロジェクト研究などの全学プロジェクト等研究費に係る中間評価及び事後評価を19件実施しました。</p> <p>⑬ 研究費の繰越制度 研究費の弾力的かつ効果的な執行を確保するため、全学プロジェクト等研究費の翌年度への繰越制度を整備しました。</p> <p>⑭ 特許制度等に関するセミナー 岩手県知的所有権センターによる特許制度等に関するセミナーを学内で2回開催しました。また、岩手大学知的財産本部やいわて産学連携推進協議会等と連携し、学内の技術移転可能な研究成果の技術移転活動に取り組みました。</p> <p>⑮ 北東アジア地域に関する研究交流ネットワーク 学内に北東アジア研究グループを組織するとともに、北東アジア地域に関する研究交流ネットワーク（NEASE-Net）第1回フォーラムを開催しました。</p> <p>⑯ 産学公交流会の開催 地域連携研究センターなどを会場としてテラヘルツ応用研究会や組込み技術研究会などの産学公交流会を開催しました。</p> <p>⑰ 民間企業等とのコンソーシアム 民間企業等とコンソーシアムを形成し、国の地域新生コンソーシアム事業や県の産学官連携研究開発プロジェクト事業に5件応募した結果、1件採択されました。</p> <p>⑱ アイーナキャンパスにおける事業展開 ア 看護学研究科 アイーナキャンパスにおける相談活動、研修会等を実施することにより、大学院生のフィールド研究・教育を充実させました。 イ 社会福祉学部 11月に社会福祉学部アイーナ相談事業実施要綱を整備し、「ソーシャルサービスセンター」、「心理相談センター」を発足させました。</p>	<p>○学生定員充足状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H17</th> <th>H18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県立 大 学</td> <td>学部</td> <td>定員 1,840</td> <td>1,840</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍数 2,003</td> <td>1,997</td> </tr> <tr> <td></td> <td>充足率 108.9</td> <td>108.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛 岡 短 期 大 学</td> <td>大学院</td> <td>定員 216</td> <td>239</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍数 191</td> <td>205</td> </tr> <tr> <td></td> <td>充足率 88.4</td> <td>85.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛 岡 短 期 大 学</td> <td>学部</td> <td>定員 200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍数 224</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td></td> <td>充足率 112.0</td> <td>115.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮 古 短 期 大 学</td> <td>学部</td> <td>定員 200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍数 211</td> <td>231</td> </tr> <tr> <td></td> <td>充足率 105.5</td> <td>115.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(H18.5.1 運営データ、人・%)</p> <p>○大学での勉学に関する意識</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>学習目標 の達成度</th> <th>勉学の満 足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県 大</td> <td>肯定的</td> <td>80.2</td> <td>58.7</td> </tr> <tr> <td>否定的</td> <td>12.3</td> <td>20.6</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7.5</td> <td>20.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛 短</td> <td>肯定的</td> <td>91.8</td> <td>54.6</td> </tr> <tr> <td>否定的</td> <td>3.1</td> <td>17.5</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5.1</td> <td>27.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮 短</td> <td>肯定的</td> <td>79.8</td> <td>73.7</td> </tr> <tr> <td>否定的</td> <td>10.1</td> <td>9.1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10.1</td> <td>17.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(在学生アンケート、%)</p> <p>○学生生活（授業以外）に関する意識</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>学生生活 の充実度</th> <th>支援等の 満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県 大</td> <td>肯定的</td> <td>87.4</td> <td>68.7</td> </tr> <tr> <td>否定的</td> <td>12.4</td> <td>16.5</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.1</td> <td>14.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛 短</td> <td>肯定的</td> <td>91.8</td> <td>78.4</td> </tr> <tr> <td>否定的</td> <td>8.2</td> <td>12.4</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.0</td> <td>9.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮 短</td> <td>肯定的</td> <td>93.9</td> <td>88.9</td> </tr> <tr> <td>否定的</td> <td>6.1</td> <td>7.1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.0</td> <td>4.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(在学生アンケート、%)</p>	区分		H17	H18	県立 大 学	学部	定員 1,840	1,840		在籍数 2,003	1,997		充足率 108.9	108.5	盛 岡 短 期 大 学	大学院	定員 216	239		在籍数 191	205		充足率 88.4	85.8	盛 岡 短 期 大 学	学部	定員 200	200		在籍数 224	230		充足率 112.0	115.0	宮 古 短 期 大 学	学部	定員 200	200		在籍数 211	231		充足率 105.5	115.5	区分		学習目標 の達成度	勉学の満 足度	県 大	肯定的	80.2	58.7	否定的	12.3	20.6	その他	7.5	20.6	盛 短	肯定的	91.8	54.6	否定的	3.1	17.5	その他	5.1	27.8	宮 短	肯定的	79.8	73.7	否定的	10.1	9.1	その他	10.1	17.2	区分		学生生活 の充実度	支援等の 満足度	県 大	肯定的	87.4	68.7	否定的	12.4	16.5	その他	0.1	14.8	盛 短	肯定的	91.8	78.4	否定的	8.2	12.4	その他	0.0	9.3	宮 短	肯定的	93.9	88.9	否定的	6.1	7.1	その他	0.0	4.0
区分		H17	H18																																																																																																																	
県立 大 学	学部	定員 1,840	1,840																																																																																																																	
		在籍数 2,003	1,997																																																																																																																	
		充足率 108.9	108.5																																																																																																																	
盛 岡 短 期 大 学	大学院	定員 216	239																																																																																																																	
		在籍数 191	205																																																																																																																	
		充足率 88.4	85.8																																																																																																																	
盛 岡 短 期 大 学	学部	定員 200	200																																																																																																																	
		在籍数 224	230																																																																																																																	
		充足率 112.0	115.0																																																																																																																	
宮 古 短 期 大 学	学部	定員 200	200																																																																																																																	
		在籍数 211	231																																																																																																																	
		充足率 105.5	115.5																																																																																																																	
区分		学習目標 の達成度	勉学の満 足度																																																																																																																	
県 大	肯定的	80.2	58.7																																																																																																																	
	否定的	12.3	20.6																																																																																																																	
	その他	7.5	20.6																																																																																																																	
盛 短	肯定的	91.8	54.6																																																																																																																	
	否定的	3.1	17.5																																																																																																																	
	その他	5.1	27.8																																																																																																																	
宮 短	肯定的	79.8	73.7																																																																																																																	
	否定的	10.1	9.1																																																																																																																	
	その他	10.1	17.2																																																																																																																	
区分		学生生活 の充実度	支援等の 満足度																																																																																																																	
県 大	肯定的	87.4	68.7																																																																																																																	
	否定的	12.4	16.5																																																																																																																	
	その他	0.1	14.8																																																																																																																	
盛 短	肯定的	91.8	78.4																																																																																																																	
	否定的	8.2	12.4																																																																																																																	
	その他	0.0	9.3																																																																																																																	
宮 短	肯定的	93.9	88.9																																																																																																																	
	否定的	6.1	7.1																																																																																																																	
	その他	0.0	4.0																																																																																																																	

区分	自己評価		主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘要 (主な運営データ等)																																																																																											
	区分	項目数		割合%																																																																																											
			<p><b>ウ ソフトウェア情報学部</b> 「IPU情報システム塾」として、専門性の高い公開講座5講座を有料で行い、29名の県民が受講しました。</p> <p><b>エ 総合政策学部</b> アイーナキャンパスにおいて、公開講座3講座を行い、38名の県民が受講しました。</p> <p><b>オ 盛岡短期大学部</b> アイーナキャンパスにおいて公開講座4講座を行い、65名の県民が受講しました。</p> <p><b>カ 他機関との連携</b> 岩手県立図書館と連携し、公開講座関連の蔵書情報の提供を3回受けました。</p> <p>⑬ 自治体・企業との連携協定の締結 紫波町、(株)アイシーエス、二戸地区広域行政事務組合及び遠野市との間に連携協定を締結し、地域連携研究センターが連携事業の企画・窓口となる大学と地域との連携の新しい枠組みを構築し、具体的な連携事業を進めました。</p> <p>◎各学部等における特色ある取組み 【看護学部、研究科】</p> <p>① 学生に対する多様な研究発表の機会を設定 卒業研究の発表会を重複しないよう講座ごとに実施し、学生が多様な研究内容を学習できるように工夫しました。さらに、外部学会でも成果を発表しました。また、卒業生が就職先で行う院内研究については、積極的に支援し、研究推進能力がさらに発展するように支援するなど、多様な発表機会を設定することで、学生が主体的にテーマを見つけて行動できるよう支援しました。</p> <p>② 他大学との教育研究交流 東大・金沢大・県立大合同ゼミを1領域において開催したほか、博士後期課程では、非常勤講師によるデータ分析方法の指導や3名の他大学研究者の協力を得て研究の指導を得るなど、他大学との教育研究交流を図りました。</p> <p>③ 成人(慢性)看護専門看護師教育課程の認定 専門看護師教育課程成人(慢性)を申請し認定を受けました。</p> <p>【社会福祉学部、研究科】</p> <p>① 「教育群」ごとに担当の指導教員を配置 4つの「教育群」ごとに10班に編成(1班10人程度)し、それぞれ担当の指導教員(アカデミック・アドバイザー)を配置しました。また、新たな教科として「心理学研究法」「学習社会・人間開発論」「社会福祉情報論」「ユニバーサルサポート論」「社会福祉経済論」を新設するとともに、科目の再編を行いました。</p> <p>② 教員免許課程の認可 各関係部局、機関と調整・協議を終え、文部科学省への「公民・幼稚園教諭」養成課程の申請を行い、認可されました。</p> <p>③ 地域福祉開発研究会の実施 岩手県及び岩手県社会福祉協議会の連携により地域の福祉課題を設定し、計画通り4回の地域福祉開発研究会を実施し、さらに他の研究会との共催でセミナーを開催し関係市町村、社会福祉協議会、民間施設等から多くの参加がありました。</p> <p>【ソフトウェア情報学部、研究科】</p> <p>① 学生による学会発表の促進 学部生の学会発表数を促進し、卒業生1人あたりの発表件数が約0.63件となり、目標を1割以上上回る成果を挙げました。</p> <p>② 外国人留学生の10月入学の実施 ソフトウェア情報学研究科博士前期課程において、志願者数の確保を図るため、外国人留学生を対象とする10月入学を実施し、7月に特別選抜を行いました。</p>	<p>○就職の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H17</th> <th>H18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">県立大学</td> <td>県内就職者数</td> <td>129</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>35.0</td> <td>34.6</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>240</td> <td>257</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>65.0</td> <td>65.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計(就職者数)</td> <td>369</td> <td>393</td> </tr> <tr> <td colspan="2">就職率</td> <td>97.1</td> <td>97.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">盛岡短大</td> <td>県内就職者数</td> <td>59</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>75.6</td> <td>82.6</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>19</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>24.4</td> <td>17.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計(就職者数)</td> <td>78</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td colspan="2">就職率</td> <td>89.7</td> <td>95.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">宮古短大</td> <td>県内就職者数</td> <td>41</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>56.9</td> <td>65.3</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>31</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>43.1</td> <td>34.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計(就職者数)</td> <td>72</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td colspan="2">就職率</td> <td>90.0</td> <td>87.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(H18.5.1 運営データ、人・%)</p> <p>○就職企業における卒業生の評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>肯定的</th> <th>否定的</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ニーズや期待への対応度</td> <td>84.7</td> <td>5.0</td> <td>10.3</td> </tr> <tr> <td>能力水準</td> <td>78.4</td> <td>3.9</td> <td>17.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(企業アンケート、%)</p> <p>○就職企業における大学の活動の評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>肯定的</th> <th>否定的</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育活動</td> <td>71.4</td> <td>2.5</td> <td>26.0</td> </tr> <tr> <td>就職支援活動</td> <td>56.8</td> <td>13.6</td> <td>29.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(企業アンケート「熱心と感じるか」、%)</p>	区分		H17	H18	県立大学	県内就職者数	129	136	割合	35.0	34.6	県外就職者数	240	257	割合	65.0	65.4	計(就職者数)		369	393	就職率		97.1	97.5	盛岡短大	県内就職者数	59	57	割合	75.6	82.6	県外就職者数	19	12	割合	24.4	17.4	計(就職者数)		78	69	就職率		89.7	95.8	宮古短大	県内就職者数	41	49	割合	56.9	65.3	県外就職者数	31	26	割合	43.1	34.7	計(就職者数)		72	75	就職率		90.0	87.2	区分	肯定的	否定的	その他	ニーズや期待への対応度	84.7	5.0	10.3	能力水準	78.4	3.9	17.7	区分	肯定的	否定的	その他	教育活動	71.4	2.5	26.0	就職支援活動	56.8	13.6	29.7
区分		H17	H18																																																																																												
県立大学	県内就職者数	129	136																																																																																												
	割合	35.0	34.6																																																																																												
	県外就職者数	240	257																																																																																												
	割合	65.0	65.4																																																																																												
計(就職者数)		369	393																																																																																												
就職率		97.1	97.5																																																																																												
盛岡短大	県内就職者数	59	57																																																																																												
	割合	75.6	82.6																																																																																												
	県外就職者数	19	12																																																																																												
	割合	24.4	17.4																																																																																												
計(就職者数)		78	69																																																																																												
就職率		89.7	95.8																																																																																												
宮古短大	県内就職者数	41	49																																																																																												
	割合	56.9	65.3																																																																																												
	県外就職者数	31	26																																																																																												
	割合	43.1	34.7																																																																																												
計(就職者数)		72	75																																																																																												
就職率		90.0	87.2																																																																																												
区分	肯定的	否定的	その他																																																																																												
ニーズや期待への対応度	84.7	5.0	10.3																																																																																												
能力水準	78.4	3.9	17.7																																																																																												
区分	肯定的	否定的	その他																																																																																												
教育活動	71.4	2.5	26.0																																																																																												
就職支援活動	56.8	13.6	29.7																																																																																												

区 分	自己評価		主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘 要 (主な運営データ等)																																												
	区分	項目数		割合%																																												
			<p>③ 保証人に対する成績通知 成績不良者に対する指導の充実を図るための新たな試みとして、保証人に対する成績通知を行いました。</p> <p><b>【総合政策学部、研究科】</b></p> <p>① 新たな資格取得教育の実施 「社会調査士」については、新入生及び在学生に対して、資格取得に関するガイダンスを行い周知を図りました。また、本資格は年度ごとに資格認定機関（社会調査士資格認定機構）から科目認定を受ける必要があるため、科目認定申請を行い、認定を受けました。「ビオトープ管理士」については在学生5名が受験し2級管理士に4名が合格しました。</p> <p>② からまつ並木伐採跡地に係る調査の実施 滝沢キャンパス内からまつ並木伐採跡地について、継続的に調査・測定を行い、景観再生・植生回復に関する報告書を作成しました。</p> <p>③ WEB上に「地域貢献フォーラム」を開設 地域貢献研究会により、WEB上に「地域貢献フォーラム」を開設し、地域貢献活動に関する意見、情報交換が行われています。</p> <p><b>【共通教育センター】</b></p> <p>① 少人数習熟度別クラス編成による英語教育 少人数習熟度別クラス編成により、同程度の英語力を持った学生のクラス編成が可能となった結果、学生のモチベーションを高めることが比較的容易となり、単位未修得者が減少しました。</p> <p>② 共通教育調整会議によるカリキュラム編成 各学部の代表者を構成員とする共通教育調整会議を設置し、教養教育を充実するための運営体制を整えるとともに、平成19年度カリキュラムを編成しました。</p> <p><b>【盛岡短期大学部】</b></p> <p>① カリキュラムの改定 生活科学科において、人文・社会・自然の枠を撤廃するとともに、シラバスの内容を精査して教養科目と専門科目との間でいくつかの科目を入れ替え、教育課程における科目の位置づけをより明確にしたカリキュラムの改訂を行いました。</p> <p>② 特色ある大学教育支援プログラム採択 国際文化学科が主体となり、「自他の文化理解を柱とした国際文化教育」というテーマで平成18年度文部科学省・特色ある大学教育支援プログラムに申請し、採択されました。</p> <p>③ 研究成果報告書の発表 「住環境」「県産食品と健康」「多文化共生」「文化継承」の4グループで研究を進め、各グループともに中間報告会を行い、グループ間での意見交換を行いました。それぞれの研究成果は『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』第9号（2007年3月発行）に報告書として発表しました。なお、「住環境」グループでは、成果を論文として日本建築学会論文報告集に投稿することとしています。</p> <p><b>【宮古短期大学部】</b></p> <p>① 就職活動支援に向けたeラーニングのコンテンツ作成 文部科学省「eラーニングによる人材育成事業」のモデル事業として、地域の企業や宮古短大卒業生の協力を得ながら、就職活動の支援に向けたeラーニングのコンテンツを作成し、教材として活用しています。</p> <p>② 学生確保のための90校訪問 岩手県、青森県、秋田県及び宮城県等の90校を訪問して、本学部の教育内容等を説明し、向学心のある学生の確保に努めました。</p> <p>③ 地域貢献活動の検証 宮古短大のこれまでの地域貢献活動を検証するとともに、宮古短大における教育のあり方について検討し、地域貢献活動を小冊子にまとめました。また、高校訪問や企業訪問を通じて、求人情報の収集に努めるとともに宮古短大における教育のあり方について、地域、企業や高等学校等に周知を図りました。</p>	<p>○産学官連携の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H17</th> <th>H18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同研究数</td> <td>13</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>受託研究数</td> <td>18</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>31</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table> <p>(運営データ、件)</p> <p>○地域貢献の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H17</th> <th>H18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">公開講座</td> <td>開講講座数</td> <td>45</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>受講者数</td> <td>2,015</td> <td>2,549</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">施設の学外利用者</td> <td>図書館</td> <td>12,991</td> <td>10,181</td> </tr> <tr> <td>体育施設等</td> <td>20,794</td> <td>20,327</td> </tr> <tr> <td>アイーナキャンパス</td> <td>—</td> <td>7,040</td> </tr> <tr> <td colspan="2">審議会委員等への就任、講師派遣数</td> <td>1,159</td> <td>1,193</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">うち</td> <td>県関係</td> <td>312</td> <td>410</td> </tr> <tr> <td>非常勤講師</td> <td>199</td> <td>217</td> </tr> </tbody> </table> <p>(運営データ、講座・人)</p>	区分	H17	H18	共同研究数	13	26	受託研究数	18	17	合 計	31	43	区分		H17	H18	公開講座	開講講座数	45	72	受講者数	2,015	2,549	施設の学外利用者	図書館	12,991	10,181	体育施設等	20,794	20,327	アイーナキャンパス	—	7,040	審議会委員等への就任、講師派遣数		1,159	1,193	うち	県関係	312	410	非常勤講師	199	217
区分	H17	H18																																														
共同研究数	13	26																																														
受託研究数	18	17																																														
合 計	31	43																																														
区分		H17	H18																																													
公開講座	開講講座数	45	72																																													
	受講者数	2,015	2,549																																													
施設の学外利用者	図書館	12,991	10,181																																													
	体育施設等	20,794	20,327																																													
	アイーナキャンパス	—	7,040																																													
審議会委員等への就任、講師派遣数		1,159	1,193																																													
うち	県関係	312	410																																													
	非常勤講師	199	217																																													

区 分	自己評価			主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘 要 (主な運営データ等)																		
	区分	項目数	割合%																				
Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	A	26	86.7	<p>① 年度計画の重点化や今後のビジョンの検討 本部長会議、役員会議において、平成19年度計画の重点事項や今後のビジョンについて協議検討し、学部長等連絡会議を通じて全学に周知するとともに、重点事項やビジョンに関する学内議論の活性化に努めました。</p> <p>② 大学改革推進本部及び副学長代理の設置 認証評価や計画の進捗状況に関する評価等に対応するとともに、評価を核として大学改革を推し進めるため、新たな本部組織として「大学改革推進本部」を平成19年度から設置することとし、評価等について責任をもって遂行する体制を整えました。 また、開学10周年など特定の課題等に機動的に取り組むため、平成19年度から新たに「副学長代理」の職を置くこととし、特定の課題等を効果的に実施する体制を整えました。</p> <p>③ アンケートによる学生の満足度調査 新入生アンケート、在学生アンケートの実施により学生の満足度等を調査しました。アンケート結果については全学に公表することを通じて、各部署における分析と対応の促進を図りました。</p> <p>④ 「盛岡短期大学部等将来構想検討委員会」を設置 盛岡短期大学部の4年制移行を検討するため「盛岡短期大学部等将来構想検討委員会」を設置し、盛岡短期大学部の4年制移行の検討に付随して、全学的な機能強化を検討しています。</p> <p>⑤ プロパー職員の配置 プロパー職員の配置計画のために各所属から意見聴取を行うとともに、任期付職員制度を拡充し、平成19年4月から、大学固有事務に従事する職員5名を採用し、配置することとしました。</p> <p>⑥ 旅費システムの改善 教職員をメンバーとしたワーキンググループを設置し、効果や問題点の検証を行い、使い勝手の良いシステムに改善しました。また、FAQの作成に向けて、調査・検討を行ないました。</p> <p>⑦ 給与明細書及び健康診断個人票等のWEB化 人事給与システム及び健康管理システムのカスタマイズを行い、平成18年12月から給与明細書及び健康診断個人票等のWEB通知化を図りました。 また、グループウェアを活用して給与及び厚生福利等の手続きに関する情報を迅速に提供し、業務の効率化を図りました。</p> <p>⑧ グループウェアの稼働 平成18年5月から、学内情報システムにグループウェアを導入し、教職員間の情報の共有化を図りました。</p> <p>⑨ 研究者情報システム導入の決定 研究者総覧、教員業績報告書等それぞれデータ収集しているデータを統合し、研究者情報システム(仮称)を構築することを決定し、平成19年7月稼働に向け、業者選定のうえ、システムの構築を行っています。</p>																			
	B	2	6.7																				
	C	2	6.7																				
	D	0	0.0																				
	計	30	100.0																				
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	A	6	50.0	<p>① 外部競争資金制度の紹介 外部競争資金の種類・内容に応じて、グループウェアへの情報掲載や研究者に対する個別の制度の紹介等を行い、応募を促進しました。</p> <p>② 外部資金獲得者への配分制度 科研費等の外部資金を獲得した場合、獲得した研究費の一定割合(直接経費の5%、間接経費の1/3)に相当する研究費を学部長等及び獲得した研究者に配分する制度(外部研究費獲得促進費)を創設しました。</p> <p>③ 科研費応募書類実践講座の実施 科研費の獲得促進に向けて、応募書類作成の実践講座(講習会、演習)を実施し、その結果として、近年減少傾向にあった応募件数が増加に転じました。</p> <p>④ 余裕資金の運用 平成18年6月8日から定期預金による運用を開始するとともに、9月21日からレートの競争見積方式を導入しました。</p>	<p>○外部研究資金の獲得状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H17</th> <th>H18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外部研究資金受入</td> <td>件数</td> <td>78</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>185,015</td> <td>145,427</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">うち 科研費</td> <td>件数</td> <td>44</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>54,200</td> <td>35,900</td> </tr> </tbody> </table> <p>(運営データ、件・千円)</p>	区分		H17	H18	外部研究資金受入	件数	78	90	金額	185,015	145,427	うち 科研費	件数	44	37	金額	54,200	35,900
	区分		H17			H18																	
	外部研究資金受入	件数	78			90																	
		金額	185,015			145,427																	
	うち 科研費	件数	44			37																	
金額		54,200	35,900																				
B	5	41.7																					
C	1	8.3																					
D	0	0.0																					
計	12	100.0																					

区 分	自己評価			主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘 要 (主な運営データ等)
	区分	項目数	割合%		
				⑤ 業務改善による業務効率化の運動（県大版IMS） 事務局全体で業務プロセス改善に取り組み、概ね毎月1回の事例発表会を行うなどして、18,404時間の業務時間の削減を図りました。なお、年度後半には、研修ビデオにより行政品質向上・CS・ESについて理解を深める取り組みを行いました。 ⑥ 省エネアクションプラン（夏季）、省エネ実証調査（冬季） 省エネアクションプラン（夏季）、省エネ実証調査（冬季）を実施し、エネルギー使用量で前年度比7.34%削減を達成しました。	
IV 自己点検・評価・改善及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとる措置	A	9	81.8	① 自己点検・評価の支援と認証評価への取り組み 大学評価委員会において、平成20年度の認証評価受審に向けた全学的取り組みスケジュールを作成し、学部長等連絡会議や認証評価連絡担当者会議を通じて、学内共有を図るとともに、各部局における自己点検・評価の取り組みの促進を図りました。 ② 実績報告書をホームページで公表 平成17年度計画実績報告書とりまとめ、岩手県地方独立行政法人評価委員会に提出のうえ、その評価を受審しました。作成した実績報告書については、その評価結果を併せて、平成18年9月21日にホームページで学外に公表しました。 ③ 大学経営評価指標モデルの構築 各部局における自己点検・評価を支援するため、学生アンケート、教職員アンケート、企業アンケートを実施するとともに、業務データを収集して「大学経営評価指標」を構築し、学部長等連絡会議や認証評価セミナーを通じて学内への周知と活用の促進を図りました。 ④ 外部評価の反映 平成17年度計画の実績に関する岩手県地方独立行政法人評価委員会による評価については、本部長会議等で検討し、平成19年度計画の重点事項に反映しました。	
	B	2	18.2		
	C	0	0.0		
	D	0	0.0		
	計	11	100.0		
V 施設設備の整備、安全管理等の目標を達成するためにとる措置	A	8	88.9	① 情報伝達訓練の実施 危機管理対応指針を策定し、指針に基づき作成した緊急連絡網により、情報伝達訓練を実施しました。 ② 心身の健康に関する保健指導の実施 仕事のストレスに関するアンケートを実施し、結果に基づく保健指導を随時行いました。また、労働安全衛生法の一部改正に伴い、長時間労働者に対する心身の健康障害を防止するための保健指導の体制を整備しました。 ③ ハラスメント防止に関する規程の整備 アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント及びセクシュアル・ハラスメントを網羅した規程及びガイドラインを制定しました。 ④ セクハラ防止研修等の実施 セクシュアル・ハラスメント防止については、パンフレットを作成し、4月の新入生に対する啓発を行うとともに、教職員に対して随時啓発活動を実施しました。また、セクシュアル・ハラスメント防止研修会及びセクシュアル・ハラスメント意識調査を実施しました。	
	B	1	11.1		
	C	0	0.0		
	D	0	0.0		
	計	9	100.0		
合 計	A	253	76.2		
	B	53	16.0		
	C	26	7.8		
	D	0	0.0		
	計	332	100.0		